

が有ったので先にきて、スキーを楽しんでいたのだ。

荷物を分けて出発。荷物は次の通りだつた。小川 31 kg、後藤 30 kg、原 30 kg、毛利 26・5 kg、杉澤康 20 kg、と標識用竹、青木 19 kg、杉澤好 16 kg、川口 14 kg、塩崎、武井は不明。

天気は快晴で白馬岳をはじめ後立山の山々が良く見えた。スキー場では若者達がカラフルなウエアでスキーを楽しんでいた。ここスキー場は会友だった故川口智也君がスキー練習中に骨折した所だった。そして彼はそのブランクを取り戻そうとあせり谷川岳で遭難死してしまう。あの遭難はスキー骨折が遠因だと私は思っている。スキー場を横断して林道に出て、登りきると梅池山荘に到着する。そして登山はここから本格的になる。ピッケルを出して気合を入れて登りだす。天狗原までは非常にキツイ登りだつた。天狗原で昼食にするペーティーもありテントが3張。私達も当初考えていたが少人数で足が揃っていないればダメという結論だつた。天狗原から乗鞍岳の登りは更に

厳しかつた。ガスも出てきて冷たい風も吹く。女性達も必死でがんばる。元気者には先行してもらいテントを張つてもらうこととした。毛利 26・5 kg、杉澤康 20 kg、と標識用竹、青木 19 kg、杉澤好 16 kg、川口 14 kg、塩崎、武井は不明。

1月1日（曇り風強し）
ヘタイム／起床 3：00 → 出発 5：45 → 小蓮華岳 8：50 → 白馬岳 11：05 → 20 → BC 15：00（泊）

寒くない夜だつた。イヤな感じで外を見ると星も出ていない。朝食は雑煮だ。外に出て出発準備をするが、暖かくアイゼンも素手でつけられた。全員体調も良く予定通り出発。ヘッドランプをつけてトップで塩崎が行く。2612mに出るまで急だつた。ここで明るくなつたが、雲が多く初日の出は拝めなかつた。

小蓮華を通過。ここは左側が見事な雪庇で絵になるので、1人残り8ミリを回す。天気は風こそ強いか大きな崩れはない様だ。しかし、辺りにはガスがかかり、期待した展望はなかつた。三国境に着いた。誰が誰だから知らない。ここにテントの跡がひとつあった。天狗原から乗鞍岳の登りは更に

がキツイ登りが待つてゐる。時間がも遅れているので出発。だがここまでがんばつてきた川口が登頂を

断念したいと申し出る。もうすぐ乗鞍を越えると風は一層強くなつたが、やっとBC着。早々とテントに入る。

三国境で川口と合流。寒そうだつたが元気だつた。杉澤も合流し、全員でBCに急ぐ。が、やはり川口等疲労でベースは上がらない。時間も遅くなるので隊を2つに分ける。元気者を毛利にまかせて先に行つてもらう。

